

# 令和7年度 第4回 学校運営協議会

1. 日時 令和8年2月27日（金）9:30～11:30

## 2. 出席者

（1）学校運営協議会委員

【委員①】元特別支援学校校長（地域コーディネーター）

【委員②】自治会 地域防災担当（地域コーディネーター）

【委員③】本校卒業生保護者

（2）校内教職員

校長 副校長 事務長 幼稚部主事 小学部主事 中学部主事 支援部主任 教務主任

## 3. 会議次第

（1）校長挨拶

（2）校内参観

（3）協議

（4）校長挨拶

## 4. 協議等記録

○校長より

今年度はデフリンピック、24時間テレビ等、様々な活動に取り組み、実りある、笑顔の多い1年間となった。今年度の反省を活かして来年度へ引き継いでいきたい。

○協議事項

<学校経営 自己評価>

① 実践報告

副校長

**いきいき**

- ・ 幼児児童生徒は、相手の意見を受け止め、自分の考えをもち、伝え合うことができている。  
→ 対話の機会を多く設定することで、相手の考えを聞いてから自分の考えを伝えることが増えてきた。今後も発達段階に応じて伝え合いの場を設定したい。
- ・ 幼児児童生徒は、自分の命を守る方法が分かり、安全に生活ができている。  
→ 登下校や校外学習で交通ルールを守った歩行ができている。避難訓練では、管理職不在時、無線の機器が使えないときの訓練を実施。教職員も子どもも真剣に考えて取り組んだ。

**わくわく**

- ・ 障害の特性を踏まえた支援の充実と「分かる」授業の実践  
→ 傾聴態度の育成に全校で取り組んだ。目標をしぼったことで達成できた。思考を深めるための授業

に向け、座談会や学習会を行った。ICT を活用してみようという教職員が増えた。すべてICT を活用するのではなく、必要な部分で使うことの有効性が分かった。

### しなやか

- ・ 関係機関からの情報と実態把握を基に個々のニーズに応じた支援の実施  
→ 通級生に関しては、学校訪問を行い、支援の仕方やかかわり方を共有し、在籍校でも取り組んでもらえた。保健士支援も行い、今後につなげることができた。
- ・ 幼児児童生徒は、デフリンピックに向けた活動に主体的に活動することができている。  
→ デフリンピックに向けた活動では、選手やかかわった方と交流をすることで、自分の将来を少しイメージできた。国際手話を覚えて使ってみる姿も多く見られ、全校体制で取り組めてよかった。通級性にも情報共有したところ、直接応援に行った子もいた。

### 幼稚部

朝の会で繰り返しルールを伝えたことで、分からないことは聞き返すことができるようになったきた。地域とのかかわりでは、こばと幼稚園、上島幼稚園との交流を積極的に行った。委員②さんにもいろいろな行事に参加していただき、子どもたちの笑顔が増えた。

### 小学部

上島小学校との学校間交流は全員参加、居住地校交流は2～6年生全員参加と、積極艇に交流活動を実施できた。少しでも自分で歩く経験をとということで、自主通学も進めている。1年生でも少しの距離でも自分一人で歩いてみよう挑戦する姿がある。ICT活用では、児童が考えたくなるような教材を工夫できた。子どもたちの意見を電子黒板で共有し、さらに思考を深める。小学生段階では、実際に手を動かして学ぶことも大切だと考える。

### 中学部

高台中、富塚中との交流を行った。相手校の生徒が、「手話を学びたい」と自主的な課題をもち、活発な交流ができた。デフリンピックにむけて国際手話も一緒に学ぶことができた。総合的な学習の時間では、来年度、聴覚障害のある生徒も楽しめる施設を自分たちで調べていく予定。教員は、ICTを使った研究授業を一人1回を実施。ICTの良い部分と、アナログのほうが良い部分も多く見つかった。

### <来年度の学校経営について>

#### 校長

- ・ 第3回の学校運営協議会でアドバイスをもらった取り組みについて、今年度実施できたものがたくさんあった。取り組み始めたものでは、Instagram、学校サポーターとしてボランティアを募集などがある。来年度から本格実施の予定。
- ・ R8グランドデザイン：目標具現化の柱として、「きく力」「ことば」を育て、地域社会とつながる学校  
次年度は、28人20人に減る。通級性が24人に増える。みんなで子どもたちを育てたい。「つながる」をキーワードに設定。  
→ 「つながる活動」学部を超えた学び。地域の専門家の力をかりる。県内3聾とのつながり。

→「つながる学び」ことばにこだわり、豊かな言語力の育成。いろいろな人とのかかわりのなかでつながる。

→「更なる連携」医療機関との連携、地域の学校に通う聞こえづらい子のため、地域の普通校とのつながる。寄宿舍での視覚障害のある方とのかかわりが学びの場。

【目指す教職員】 それぞれの強みを生かし、チームとしてつながり合う教職員。

日課の見直し。授業時間を確保しながら小中学部の下校時間を30分はやく。

行事の見直し：運動会→スポーツ交流会へ

#### <委員からの御意見>

委員②：ランドデザインについての質問。小学部（相手に注目）中学部（他者と関わる）通級（自己と向き合い）と、関わる対象がちがう理由があるのか。

校長→通級は普通校に通い、たくさんの人とのかかわりは十分ある。大勢の中での聞こえづらい自分への向き合い方が重要。孤独感をなくしたい。

委員③：来年度、こどもが減る。交流授業を増やし、たくさん交流できると孤独を減らせる。

委員①：ICT活用に関する保護者評価が低い。ICTは子どもたちには可視化できて教育効果が大きい。保護者に成果をつたえる機会が大切なのは。人数が少なくても学びを深められるように。

#### ○校長より

私たちが元気であることが子どもたちの笑顔につながっていく。健康で、100%のパフォーマンスを目指したい。つながりあって、さらに学校経営計画を良いものにしていきたい。